

卒業生との絆ニュースNo. 107 管弦楽団定期演奏会の報告

卒業生の皆様へ

4月から卒業生室に加わった菊地です。卒業生の皆様よろしくお願ひ申し上げます。

さて、No. 105でお知らせしました千葉大学管弦楽団の第109回定期演奏会に足を運びました。

会場は音響に定評のある習志野文化ホールです。会場は老若男女で溢れかえっていましたが、中高年の方々も数多くいらっしゃいましたが、あの中にはOBOGの皆様も来場されていたのでしょうか。

約1,500席が満席になったところで演奏の始まりです。指揮は気鋭の藤岡幸夫氏（関西フィルハーモニー管弦楽団主席指揮者）、曲目は、前半がボロディンの「イーゴリ公」から“序曲”と“韃靼人の踊り”、休憩を挟んで、チャイコフスキーの「交響曲第4番」です。

個人的には“韃靼人の踊り”が大変素晴らしく、瞳を閉じれば中央ユーラシアの草原地帯を馬で駆け抜ける遊牧民の姿が浮かんでくるようでした。

‘ブラボー！’の連呼と拍手が鳴り止まない中、藤岡氏から楽団員諸氏に情熱的な賞賛の言葉が掛けられました。150名を超える楽団員に、楽器パート毎のトレーナーの先生方（プロの音楽家）も熱心な指導をしてくださる、という紹介もありましたが、大学の中の教師と学生という枠に止まらず、一味違った素敵な師弟関係を垣間見た想いです。

人生の中の短い期間ではあるけれども、何かに熱中できるということは素晴らしいことだと強く感じました。

アンコール曲の演奏を含めて約2時間がアツという間に過ぎました。普段、クラシック音楽とは無縁の生活を送っていますが、『たまにはいいもんだな』と和やかな気分で家路に就きました。